

## インフォメーション

### 春夏製品のご案内



#### リニューアル

#### こてっちゃん 旨辛コチジャン味

コク・旨みが特長の「韓国産コチジャン」を使用し、にんにくの旨みと唐辛子の辛みをきかせたコクのある辛さに仕上げました。

#### リニューアル

#### こてっちゃん コク味噌味

こてっちゃんの美味しさのポイントは、クセになるコクと旨みです。3種類の味噌を使った合わせ味噌とローストガーリックを使用したコクの深いたれで仕上げました。

#### 新発売

#### こてっちゃん にんにく醤油味

にんにくペースト・ローストガーリックを使用して、ごはんによくあう深みのある味に仕上げました。野菜炒めにもピッタリの味付けです。

#### 新発売

#### おかず楽菜

#### シリーズ

野菜を加えて調理する具(肉)入り調理ソースです。フライパンで炒めるだけでなく、電子レンジ調理も可能な商品です。

### 株主ご優待のお知らせ

株主の皆さまだけにお届けします。

#### ご優待内容

#### ■2月末の株主さま

- ◎2,000株以上保有の株主さま  
「10,000円相当の国産牛肉、または、国産豚肉」
- ◎500~1,999株保有の株主さま「3,000円相当の自社グループ製品」  
※上記の国産牛肉(豚肉)および自社製品は11月にお送り致します。

#### ■2月末、8月末の株主さま

- ◎100株以上保有の株主さま一律「当社オリジナルギフト商品を優待価格にて販売」  
※6月、11月に対象株主さまにカタログをお送り致します。

国産牛肉(和牛) 弊社が厳選した国産牛肉、豚肉の逸品。注2,000株以上保有



ローススライス



ロースステーキ

#### 国産豚肉(ゆめの大地)



※写真はイメージです。  
料理写真の野菜、什器等は  
ご優待セットには含まれておりません。

## 会社概要

社名	エスフーズ株式会社 SFoods Inc.(コード番号2292東証1部)
設立	1967年(昭和42年)5月22日
代表者	代表取締役社長 村上真之助
資本金	42億9,835万円
事業内容	食肉等の製造・卸売事業、小売事業、外食事業 (グループ)

## 株式メモ

■事業年度	3月1日~翌年2月末日
■期末配当金受領株主確定日	2月末日
■中間配当金受領株主確定日	8月31日
■定時株主総会	毎年5月
■株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
■株主名簿管理人 事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
■郵送物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	電話 ☎0120-782-031(通話無料)
インターネット ホームページURL	https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html

(ご注意)

【株式に関する住所変更等のお手続きについてのご照会】

証券会社の口座をご利用の株主様は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。証券会社の口座をご利用でない株主様は、上記電話照会先へご連絡ください。

【未払いの配当金について】

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

■上場証券取引所	東京証券取引所
■公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.sfoods.co.jp/investor/koukoku.html (ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)
■単元株式数	100株

【特別口座の口座管理機関変更に関するご案内】

2016年5月25日をもって、特別口座の口座管理機関を三菱UFJ信託銀行株式会社から三井住友信託銀行株式会社へ変更いたしました。



エスフーズ株式会社 〒663-8142 兵庫県西宮市鳴尾浜1丁目22番13 TEL.0798-43-1065(代表)  
http://www.sfoods.co.jp/



# SFoods News

2020年2月期

2019年3月1日~2020年2月29日



代表取締役社長  
村上 真之助

## 事業の概況に についてのご報告

当連結会計年度における日本経済は、長引く米中貿易紛争摩擦や不安定な中東情勢など海外の不安要因を抱えながらも、企業業績や雇用環境は堅調に推移しました。個人消費は、前半は緩やかな回復基調でしたが、10月の消費増税によりやや低迷し

ました。また、年度末に発生した新型コロナウイルス感染症は、日本経済に今後大きな影響を及ぼすものと懸念されます。食肉業界にあっては、流通コストや人件費などの経費増大により業績が圧迫される状況が続いております。さらに、これからは新型コロナウイルスによる消費構造の変化への厳しい対応が迫られるものと思われま

す。このような状況において、当社グループは、企業の安定的発展を進めるため、食肉の生産から小売・外食までの食肉に関わる事業を一貫して取り組む垂直統合を基本の事業戦略として推進してまいりました。

食肉等の製造・卸売事業においては、最上流にあたる食肉の生産・調達部門に力を入れております。▶

▼牛については、米国の高級牛肉ブランド「オーロラビーフ」の経営基盤の強化に努めました。また、国産ブランド牛の調達力強化を進めました。豚については、北海道の豚肉ブランド「ゆめの大地」の飼養・出荷頭数の増加に取り組みました。鶏については、関東の事業所の再編により事業効率と収益性の改善を進めてまいりました。製品事業では、「こてっちゃん」や「こてっちゃん牛もつ鍋」などの定番商品のリニューアルや季節製品の新発売により訴求力を高めるとともに、製造拠点への設備投資により、今後の需要拡大と高度な加工技術への要請に対応できる体制を整備しました。



食肉等の小売事業においては、惣菜部門と精肉部門の組織及び物流センターの統合をさらに進めたことにより、スケールメリットを生かしながら、スピードを上げた運営を進めてまいりました。それに加え、既存店活性化や不採算店の閉鎖を実施しつつ、新規ディベロッパーへの出店や、新業態店舗への取り組みを進めてまいりました。また、さらなる競争力向上のための人材開発等施策にも取り組み、より専門知識を持った従業員育成のための肉のマイスター制度の定着化、パート・アルバイトスタッフの教育制度の充実、作業オペレーションの改善等を実施しております。また各種イベントに沿った提案型の販売は、全店が参加の上、情報を相互に共有し、より効果的な提案の実現を図ってまいりました。食肉等の外食事業においては、焼肉・しゃぶしゃぶチェーン事業とステーキレストランチェーン事業の共同出店している大型店舗が全体を牽引しました。また、メニュー及び料金の改定や店舗リニューアル等、競争力向上のための施策を実施するとともに、焼肉・しゃぶしゃぶチェーン事業では不採算店の閉鎖も実施しております。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は3,519億7千2百万円(前連結会計年度比3.9%増)、損益面につきましては、売上高は伸ばしたものの、原価率が上昇したこと、物流費など販売費及び一般管理費が上昇したことにより、営業利益は107億3百万円(前連結会計年度比2.5%減)、経常利益は110億8千5百万円(前連結会計年度比2.3%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は65億1千1百万円(前連結会計年度比9.4%減)となりました。

## 今後の見通し



新東京支店

中国に端を発した新型コロナウイルス感染症が、世界各国で猛威を奮い、日本においてもオリンピックの一年延期を決定するなど、政治・経済に大きな影響が発生しつつあります。食肉業界においても、長期化が必至と思われる未曾有の災害に対する抜本的対応を迫られて

おります。このような環境下、当社は食品企業としての責務を認識し、お客様に安定して食品関連サービスを提供すると共に、当社の事業を

堅実に運営することで食肉業界の維持発展に寄与していきたいと考えております。食肉等の製造・卸売事業においては、原料の安定確保の観点から、最上流にあたる食肉の生産・調達部門を更に拡充していきます。現在国内を始め、北米、オセアニアで牛肉の調達事業を進めておりますが、長期的な戦略として更に強化していきます。国内販売においては、新規得意先の獲得に加えて、既存得意先へのアプローチを見直し、シェアを高めていきます。海外販売は、環境の変化を見極め、より深く各国市場への浸透を図ります。



MONBEEF (豪州)

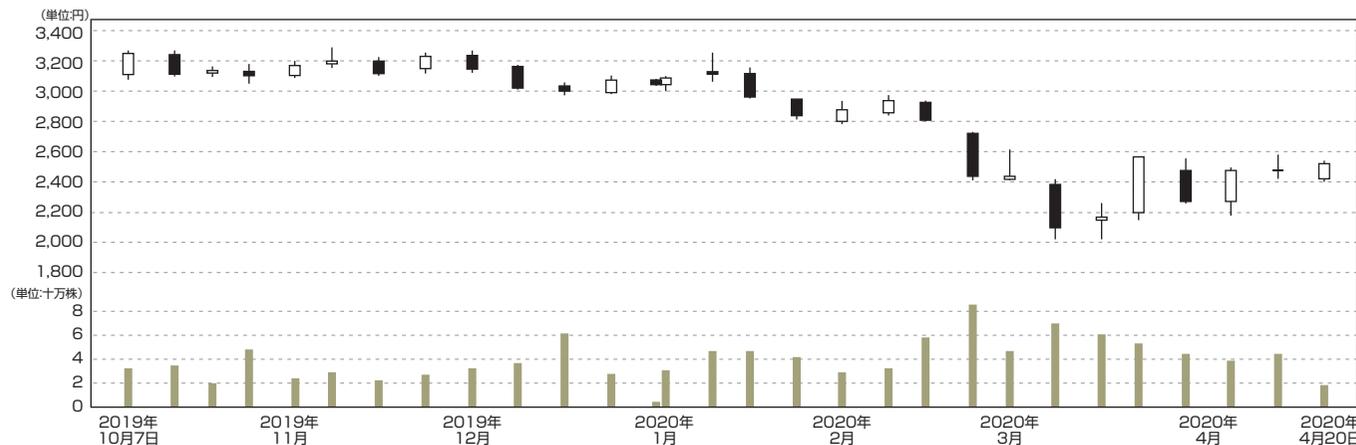
製品事業については、市場の動向に敏感に対応した製品の開発・販促を進めていきます。近年、共働き家庭の増加により、スーパーなどでは料理素材から調理済み製品や個食製品に需要が移行しつつあります。また、フードロス問題への関心の高まりにより、賞味期限の長い商品が求められつつあります。新たなニーズに合致した製品をタイムリーに市場に送り出せる体制を整えてまいります。

食肉等の小売事業においては、引き続き既存店活性化や、不採算店閉鎖を継続しつつ、新規ディベロッパーへの出店や、新業態店舗への取り組みを進めてまいります。また、精肉小売と惣菜小売の統合を更に進め、スケールメリットを生かしたより効率的な運営を図る予定です。

食肉等の外食事業においては、新型コロナウイルスによる影響を最も被る部門であるとの認識のもと、お客様が安心してご利用できるための衛生対策・環境整備を徹底させると共に、従来からの着実な採算重視の経営を維持していく方針です。

グループ経営の向上については、各企業の経営の独立性を認めつつも、全社共通の課題、例えば、食品安全に対する社会的な要請などについては、横断的な管理を進めることにより、グループ全体のバランスの取れた発展を目指していきます。

## ●株価の推移と株式の売買高



単位: 百万円 (配当金を除く)

※東証: 適定データ

次期の見通しにつきましては、新型コロナウイルスの影響により大変厳しい経営環境が年間を通じて続くものと思われることから、売上高3,300億円(前年同期比6.2%減)、営業利益80億円(前年同期比25.3%減)、経常利益82億円(前年同期比26.0%減)、親会社株主に帰属する当期純利益72億円(前年同期比10.6%増)を見込んでおります。なお、親会社株式に帰属する当期純利益予想につきましては、2020年7月実施の固定資産(土地)譲渡にかかる特別利益の計上を加味しております。

## 中長期的な会社の経営戦略

当社グループは、経営の基本方針に沿って食肉の総合企業集団を目指しており、食肉を中心とした食品の安定的な供給体制の確立に引き続き取り組んでまいります。具体的には、食肉の生産、調達、加工、流通、及び最終消費者向け販売・サービスという食肉流通の川上領域から川下領域まで一貫したグループ内食肉サプライチェーンの構築を進めます。さらに、国内に留まらず海外における食肉流通機能も拡充することにより、社会情勢の変動への対応力を高めてまいります。

## 営業成績と財産状況の推移(連結)

区別	第52期 2018年2月期	第53期 2019年2月期	第54期 2020年2月期	第55期見通し 2021年2月期
売上高	316,411	338,781	351,972	330,000
営業利益	10,959	10,973	10,703	8,000
経常利益	11,482	11,344	11,085	8,200
親会社株主に帰属する当期純利益	7,760	7,185	6,511	7,200
総資産	156,649	165,062	171,071	
純資産	86,552	86,028	86,348	
1株当りの年間配当金	43円	56円	60円	64円